

震災と火

長田_火災の様子 資料No.0000529-003001-001,00005

阪神・淡路大震災では、「火」が人びとの記憶に深く刻まれました。火は街を焼き尽くす恐怖の象徴であると同時に、寒さの中で人びとを温め、希望を灯す存在でもありました。

過去の記憶を未来へつなぐために、どうぞ足を止め、火が伝える姿をご覧下さい。

会期：2025（令和6）年12月16日（火）

～2026（令和7）年5月24日（日）

会場：人と防災未来センター 西館5階資料室

本展示では三つの視点から、震災と火の関係を多面的に見つめ直します。

恐れ

火が街を焼き尽くし、いつもの風景を一変させた。熱で溶けた金属やガラスが、その恐怖と猛威を物語る。



炊き出し用大釜セット 資料 No.0000515-001001

祈り

灯された火には、失われた命への祈りが込められている。希望の灯が、未来を照らし続ける。



1・17 希望の灯りの点の部分

資料 No.3300206-001006-004.00001

●震災資料をお持ちの方へ

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいんかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方など、悩んだ際には、ぜひ一度、資料室までご相談ください。

●お問合せ

人と防災未来センター資料室

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

TEL : 078-262-5058

FAX : 078-262-5062